

## RSSC 修了生の皆さま

立教セカンドステージ大学

RSSC 同窓会及び、サポートセンター登録研究会、同好会、期生会の皆さま。

日頃、様々にご活躍のことと存じますが、政府により発せられた非常事態宣言下、コロナウイルス感染の拡大には、終息が全く見えてこない状況で、皆さまには不安な日々をお過ごしのことと拝察致します。

RSSC では、春学期と夏期集中講義は中止となっております。したがって、今年度はサポートセンター登録研究会の皆さまに研究会活動報告の形で、必修講義「学問の世界 A」に御協力頂く機会もなくなりました。

一方、皆さまにおかれましてもその活動が停滞すると同時に、この先の見通しも立てにくい状況にあると思います。4月に開かれた立教セカンドステージ大学運営委員会においても、社会貢献活動サポートセンター登録研究会の皆さまの現状が話題となり、感染のリスクを避け、来年度以降にまたお元気に活動を再開できますように、いくつかのご注意とアドバイスをさしあげるべきであるとの議論となり、研究会代表者の皆さまに通知をさしあげました。

その後、同窓会の木村会長より、「同好会や期生会も研究会同様に受講生、修了生で構成されており、従来から活発に活動してきました。従って、今回事務室から社会貢献活動サポートセンター名で出された注意喚起はそのまま当てはまり、皆さんに大いに参考になると思われます」とのご意見を頂きましたので、改めて、皆さまにも同趣旨のお知らせをする次第です。

新型コロナウイルス感染に関連する注意点は、既にメディア等でも強調されているところではありますが、以下の通りです。

- (1) 新型コロナウイルスは、高齢者に際立った重症化のリスクがあることは知られており、RSSC 修了生にとっては通常の感染防止策よりも、さらなる警戒が必要です。
- (2) マスク着用、徹底した手洗い、「三密」を避けることなどはもちろん、新型コロナウイルスはプラスチック、金属などの表面での長時間の残留が大変に危険であることを、十分に意識して下さい。
- (3) 非常事態宣言が解除されたとしても、それで感染の危険が去ったわけではないので、研究会内で実際に対面して打ち合わせしたり、議論したり、懇談することは、安全性が確実に保証されるまではできる限り避けて下さい。

実際に会って様々なコミュニケーションを行う中で、互いの信頼関係を深めることが、RSSC 及び、受講生、修了生にとって重要であることは、これまで立教セカンドステージ大学が堅持してきた基本方針でした。しかし、この感染状況においては、この行為が危険を伴うものであることは論を待ちません。皆さまの活動が、感染の機会となってしまうよう

に、最大限の注意をお願いします。

しかし、皆さまの活動そのものを完全な休止状態におくことは、極めて残念なことです。単に活動が休止によって、大きなダメージを受けるだけでなく、自宅にこもり、思考すら低調な状態におかれると、われわれの健康までも蝕まれかねません。あらゆる手段、特にオンライン・メディアを使って、相互のコミュニケーションを活性化することを考えて下さい。特に有効であると考えられるのは、いわゆる「テレビ会議システム」を使ったコミュニケーションであると思われます。実際に、テレビ会議で顔を見ながら久しぶりにやりとりすると、「気持ちも前向きになった」という声を、修了生からも聞きます。それは、皆さまの活動にとってもプラスとなるにちがいありません。

手段としては、Skype や Zoom、Google Hangouts Meet などの無料版を使うのが最も手軽であると思われます。また、顔は見えませんが無料のメーリングリスト・サービスなども有効です。ネットで検索をかけると、これらのサービスについて、様々なガイドが公開されています。LINE を使ったやりとりも、仲間同士で気軽にコミュニケーションできるという点でよいかも知れません。

要はこれらを使って、相互に「心が通い合う」状態を保っていくことです。これまで培ってこられた、研究会をはじめとする同窓の修了生の繋がりを絶やすことなく、よりいっそう、充実を図って頂ければ幸いです。

皆さまの、御健康を心よりお祈り申し上げます。

2020年5月17日